

人を活かす サーバント・リーダーシップの力

Vol. 1
人の本質に根差した
リーダーシップ

眞田茂人

人は他人に奉仕することで、
自分の存在価値を感じたり、
やりがいを感じる事ができます。
人を笑顔にできたら、自分も笑顔になります。
人を元気にしたら、自分も元気になります。
人を癒すことで、自分が癒されます。



サーバント・
リーダーシップとは？

「悲しみと苦痛は、やがて『人
のために尽くす心』という美し
い花を咲かせる土壌だと考えま
しょう」——ヘレン・ケラーの
言葉です。

人に「尽くす」「奉仕する」
リーダーをサーバント・リーダ
ーと言います。サーバント・リ
ーダーシップは、ロバート・グ
リーンリーフ（一九〇四〜一九
九〇）が提唱した「リーダーで
ある人は、まず相手に奉仕し、
その後相手を導くものである」
という実践哲学です。グリーン
リーフは言います。「サーバン
ト・リーダーはまず初めに奉仕



さなだ しげと
早稲田大学卒業。株式会社レ
アリゼ代表取締役社長。NPO
法人日本サーバント・リーダ
ーシップ協会理事。心理学
やシステム思考をベースにし
た人材開発及び組織開発のコン
サルタントを展開。サーバ
ントリーダーシップの普及を
通じ、日本を再生し、グロー
バルに通用するリーダーの育
成にも力を入れている。

したいという自然な感情があり、奉仕することが第一なのである」

私は日本サーバント・リーダーシップ協会の理事長として、この哲学の普及に取り組んでいますが、「人に『奉仕したい』なんてことは綺麗事であって、そんなことを考えるのはごく一部の特殊な人間だけだよ」という反論を受けることがあります。本当にそうでしょうか。

3・11東日本大震災の後、日本中の人が、「自分も何か被災された方々の役に立ちたい」と思い、「自分に何ができるだろうか」と問うたはずです。日本中どころか、海外でも多くの人がそう思ってくれました。なぜ



なら、「人の役に立ちたい」「人に奉仕したい」という気持ちは、人間が本来持っているものだからです。

サーバントは 人間の本質

二〇世紀末のグリーンリリーフが提唱したサーバント・リーダーシップですが、その思想の起源は古く、聖書の中に見られます。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイによる福音書七章一二節)が黄金律と呼ばれるように、聖書は他人への奉仕について何度も語っています。

「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい」(ルカによる福音書二二章二〇節)

「あなたがたの中で偉くなり、たい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕しもべになりなさい」(マタイによる福音書二〇章二六、二七節)

また、イエスが弟子の足を洗う有名な場面があります。当時、足を洗うという行為は、最高の謙遜を現していました。また、足を洗うというのは象徴的な愛の行為でもあります。イエスは身をもって、人に仕えることの価値を表現したのです。

このように二千年以上の長き

にわたって傳承されている考えが、ただの綺麗事のわけはありません。「人に奉仕したい」「人に仕えたい」という考えは、人間の本質を表しているからこそ傳承されているのだと思います。東洋においても同じ思想が昔からあります。

仏教には「四無量心しむりょうしん」という考え方があります。

慈無量心 || 相手の幸福を望む心
悲無量心 || 苦しみを除いてあげ

たいと思う心

喜無量心 || 相手の幸福を共に喜

ぶ心

捨無量心 || 相手に対する平静で

落ち着いた心

このように、他人に奉仕する心の大切さを教えています。

論語には「仁じん」や「恕じょ」という言葉が出てきます。「仁」は他者を慈しみ愛することです。

「一生の訓戒となるような言葉があるのでしようか」と問われた孔子は、それは「恕」であると答えています。「恕」とは他人を思いやる心です。また、孔子は、「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ」(「衛霊公」第一五、二四)とも語っています。

ヒンドゥー教にも「人が他人からしてもらいたくないと思ういかなることも他人にしてはいけない」(『マハーバーラタ』五の一五の一七)という教えがあるそうです。

なぜ、人は「奉仕」するのか

「情けは人のためならず」という言葉があります。「他人に情けをかけておけば、めぐりめぐって自分にもよい報いが来る」とか、「人に親切にしておけば、必ずよい報いがある」という意味です。自分が親切にしたその人が、今度は別の人を親切にし、そのような親切の連鎖が人々の間にめぐりめぐって、いつかは自分も誰かから親切にされることを述べています。「風が吹けば桶屋が儲かる」的な発想ですが、人が他人に「奉仕」する理由には、こういった打算的な面も確かにあるでしょう。

う。

しかしそれ以上に、人が他人に「奉仕」する直接的な理由があるのです。人は他人に奉仕することで欲求を充足し、幸せを感じるからです。

「選択理論心理学」の提唱者で知られる米国のウイリアム・グラッサー博士によると、人は誰でも「基本的欲求」を持っており、といいます。これは生まれ持ったもので、人はこの「基本的欲求」を満たそうとして行動します。その結果、人は満足感や充足感などを感じ、幸せな状態になります。

例えば、人は他人に奉仕することで、自分の存在価値を感じたり、やりがいを感じることも

できます。人を笑顔にできたら、自分も笑顔になれます。人を元気にしたら、自分も元気になります。人を癒すことで、自分が癒されます。これは、人に「奉仕」することによって「基本的欲求」が満たされるからなのです。

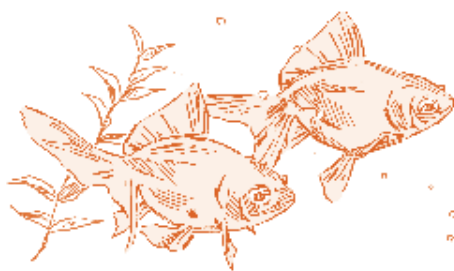
このように、サーバントは綺麗事や道徳ではなく、人に元々備わった資質だと思います。

誰でも発揮できるリーダーシップ

本来、リーダーシップは組織のトップや管理職にだけあるものではありません。どの立場でもリーダーシップは発揮できます。例えば、子どもたちが集ま

っているなかで、誰かが、「次、
○○して遊ぼう！」と言って、
みんなが「やろうやろう」と同
意して遊び始めたといいます。こ
の場合、その子どもはリーダー
シップを発揮したと言えます。
反対に、管理職であつても、リ
ーダーシップを発揮していない
人もいます。リーダーシップと
は本来、肩書とは無関係なので
す。

今回の大震災においても、各
地で無名の人たちが素晴らしい
リーダーシップを発揮しました。
政府や行政の人たちだけでなく、
原発で決死の覚悟で取り組んで
くれた現場の作業員の方々、被
災地で救出活動に携わった人た
ち、津波から住民を守ろうと懸



命に活動した消防団の人たち、
避難所でボランティア活動をし
た人たち、物資の輸送に骨を折
ってくれた人たちなど、彼らは
いづれもサーバント・リーダー
です。

被災地以外でも、多くの人の
心にサーバント・リーダーシッ
プが芽生え始めました。現在、
あらゆる面で窮地に立つ日本を
再興していくためには、多くの
人がサーバント・リーダーとし
て立ち上がる必要があります。

これから十二回にわたってサ
ーバント・リーダーシップに関
する連載を通して、そのバック
アップをしていきたいと思いま
す。